

令和4年度 学校総合評価

1 今年度の重点目標に対する総合評価

「1 学校教育目標」に基づいて、以下の5つの重点課題の改善に取り組んだ。

「学習活動 教科指導」に関しては、予習・復習およびテストの見直しの習慣について「しっかり行っている」と回答した生徒の割合は71%(12月調査結果)となり、目標の75%には届かなかった。7月の調査では82%であったが、昨年と同様に2学期に低下した。教科担当者による個別指導やテスト後の面接指導も行ったが、さらに改善に向けての方策を考えなければならない。教師の授業力の向上に関しては、互見授業回数が達成率60%と目標を下回ったが、授業での学び合い活動およびICT活用については93%と高い割合である。

「学校生活 生活指導」に関して、社会的なルール・マナーの実践度は目標を若干下回ったが、ほぼ目標を達成した。健康健診を受けての受診完治率については72%であり、目標には届かなかったがほぼ達成したといえる。また保健室への来室者が比較的少なかったことは、生徒が自主的に健康管理ができていたといえよう。その反面、精神的な悩みを抱える生徒についてはSC、SSWの支援を得て対応しているが、今後も粘り強く見守っていくことが重要である。

「進路支援 進路指導」に関して、一人あたりの面接指導回数、年間に6回以上(3年生は10回以上)の目標を達成した。丁寧な個別指導や教員からの声かけは、本校の学習指導の根幹であり、その伝統を継承している。また、志望学部学科や、具体的な志望大学を適切な時期に決めた生徒の割合は昨年より上昇し、低学年から目標意識を持たせる指導が成果をあげた。

「特別活動」に関しては、学校行事をコロナ禍前にかなり近いかたちで実施することができ、主体的に行事に参加、協力した生徒の割合は目標値を大きく上回る結果であった。部活動においても、全学年で満足度の平均は90%近い結果が得られた。対外試合等の活動を以前と同様に行うことができたのが、原因の一つだと考えられる。また「読書指導」に関しては、今年度は「図書委員会活動の活性化」を重点課題とした。図書委員会の活動に参加した生徒の割合は85%という結果であり、図書委員だけでなく多くの生徒が図書館の行事に協力したといえる。

「保護者・地域・同窓会との連携」に関して、PTA研修会等の行事への参加率は80%近くになり、ほぼ目標を達成した。また生徒の地域交流については、課題研究の調査や発表会を通して地域や市役所との連携を昨年以上に増やすことができた。さらに、ちゅうりっぷ認定こども園との交流もオンラインを通じて数年ぶりに実施することができた。

学校評議員からは、教育環境の保全、教育の機会の保持に努めていることへの高い評価、並びに今後とも高い目標を持って生徒を育てていただきたいとの激励の言葉をいただいた。

2 次年度に向けての課題と方策

- ・主体的な学習姿勢において、年度当初の意気込みが持続するよう、働きかけの工夫を要する。
- ・普段から互見授業を行うなど、一層、授業改善に取り組みやすい職場環境を作る。
- ・スマートフォンの動画、画像撮影への問題意識が低下しつつあり、対策が必要である。
- ・低学年において学習習慣や進路意識を身につけさせるための指導を一層、充実させる。
- ・部活動について、地域や中学校の動向を踏まえ、本校の実情と合わせて実施形態を検討する。
- ・地域における課題研究、交流に一層取り組むとともに、中学校とも連携していく。

3 学校アクションプラン

令和4年度 砺波高校アクションプラン -1-		
重点項目	ア 学習活動 教科指導	
重点課題	授業を中心とした学力の養成と自己学習の充実	
現 状	<p>○予習復習やテストの見直しを行う生徒の割合が下がっている。授業に対して主体的に取り組み、深く考えを働かせる生徒の割合も伸び悩んでおり、引き続き授業改善に努めながら、生徒の授業に対する満足度を高める工夫が必要となっている。</p> <p>○授業力向上のため、互見授業を行って日々の授業改善に取り組むとともに、授業方法の研修会等に積極的に参加して、新しい指導法を吸収し授業に反映させている。</p> <p>○教育クラウドサービスと、生徒と教員に1台ずつ配備されているタブレットPCを利活用して生徒の思考力創造力を伸ばす効果的な方法を見いだす必要がある。</p>	
達成目標	<p>①家庭学習習慣のアンケート調査 (a) 1、2年生の「予習復習やテストの見直しをしっかりと行っている」と答える生徒 (b) 1、2年生の「授業に満足している」と答える生徒</p>	<p>②教師の授業力向上 (a) 互見授業に参加した回数を1人3回以上とする。 (b) 授業でICT機器を効果的に活用する。または、協働力、発信力を高めるための学び合い活動を行う。</p>
	<p>(a) 達成率75%以上 (b) 達成率75%以上</p>	<p>(a) 達成率70%以上 (b) 達成率100%</p>
方 策	<p>○協働力を高める取組みを学習に取り入れ、予習復習に主体的に取り組む習慣を定着させる。</p> <p>○学習実態調査、面接を継続し、生徒の生活実態や学習意識の変化を把握する。</p> <p>○指導と評価を一体化しながら、思考力や創造力および発信力を高められる生徒の集団づくりを進める。</p> <p>○教科部会、互見授業、授業研修会などを通じて指導力を高めるよう努力する。</p>	
達成度	<p>1,2年平均 (a) 71%、(b) 89% 7月調査→12月調査(自己評価) (a) 1年:82%→69%、2年:82%→72% (b) 1年:89%→89%、2年:90%→89%</p>	<p>(a) 60% (b) ICT 93% 学び合い 93%</p>
具体的な取組状況	<p>① (a)教科担当者は常に生徒の学習状況の把握に努め、個別指導やノート回収、面接やアドバイス等を行っている。(b)習熟度別や探究テーマ別に協働的な学習活動を取り入れ、生徒がより主体的に取り組むような仕掛け作りを行っている。また、単元を終了するごとに評価を行い、次の単元の学習指導に生かすとともに、生徒の実態に応じた学びの定着、進化、発展につなげている(指導と評価の一体化)。</p> <p>② 互見授業の他に、Google Workspace の研修会を10回行った。</p>	
評 価	① B	② B
学校関係者の意見	<p>・学習の様子など、資料だけでは分からないことも多いので、授業や課題研究などについて実際に見る機会がもっとあるとよい。</p> <p>・達成目標について、互見授業の頻度などは教師の立場からの方策を数値化したものであり、本来の目標である生徒の変容などを直接反映したものを考えてほしい。</p>	
次年度に向けての課題	<p>① 昨年と比べて結果は良くなっているので、取り組みを継続していきたい。ただ、授業に対する満足度の割に具体的な学習行動に必ずしもつながっていない点気がかりである。学習の意義や目標を核心に据え、行動の原動力となるよう、意識を高めるための仕掛けづくりや意識づけ、声かけに粘り強く取り組んでいく。</p> <p>② 互見授業の参加率が低下した。2年生の進路研修旅行が11月中旬に延期されたことが多少影響したようだ。互見授業週間は設けるが、いつでも互見授業を行うような体制にするのもよいのではないかと考える。互見授業や授業改善を行いやすい職場環境を作ることが必要だと考える。</p>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)

令和4年度 砺波高校アクションプラン -2-

重点項目	イ 学校生活 生活指導（心身の健康指導を含む）	
重点課題	学校生活における基本的な生活習慣の涵養と健康増進	
現 状	<p>① 規律ある生活として「挨拶の励行」「服装、頭髪の整備」「時間厳守」「公共でのマナー遵守」「携帯電話の適切な使用」を挙げているが、「社会的なルール・マナーを守る気持ちを持つ（意思表示）」即ち、ルール・マナーを守り実践すると回答した生徒は94.4%（令和3年度）である。</p> <p>② 保健室への来室理由は、頭痛や吐き気を伴う体調不良が多く、その原因は睡眠不足である生徒が大半を占めている。体調不良を訴えるほどではないが、多くの生徒が日常的に睡眠不足を感じている。健康診断の結果、治療カードを受け取ってもすぐに医療機関を受診しない生徒が多く、その割合は特に眼科が多い。令和3年度は、治療の必要がない生徒、及び受診、完治した生徒の割合が75.0%であった。</p>	
達成目標	① 社会的なルール・マナーを守り実践する	② 健康診断の結果、治療の必要がない生徒及び医療機関を受診、完治した（治療カードを提出した）生徒の割合
	98%以上	75%以上
方 策	<p>○「社会的なルール・マナー」についてのアンケートを実施して理解度を高める。また、実践する生徒を増やす方策として、生徒が作り宣言したルールを守る形として生徒の自主性に任せる。</p> <p>○生徒や保護者に対して文書で早期受診を促すとともに、保健だよりや掲示物などによる啓蒙活動を推進する。</p> <p>○保健講話や個別の健康相談を充実させるとともに、生徒保健委員会の活動を通して、生徒が主体的により良い生活リズムや睡眠の習慣を身に付けられるよう働きかける。</p>	
達成度	<p>90.7%</p> <p>1年：86.4% (92.7)</p> <p>2年：91.6% (94.4)</p> <p>3年：90.7% (96.6)</p>	<p>72.1%</p> <p>1年：78.1%</p> <p>2年：77.5%</p> <p>3年：62.2%</p>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会的なルール・マナー」のアンケートから見える砺波高校生の現状報告 ・制服についてのホームルーム活動 ・自転車鍵かけ運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への受診等の連絡として1、2学期の保護者会時に個別の案内文書配布 ・生徒保健委員会作成の保健だよりによる健康管理等に関する情報提供4回
評 価	B	B
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の道交法違反への取り締まりが厳しくなっている。高校生でも指導の機会があるとよい。 ・ネットの影響が低年齢化しているので、小中学校での経験を踏まえて高校でのネットリテラシー指導を考えてほしい。 ・生徒のメンタル面の健康や、ヤングケアラーの実態について一層注視してほしい。 	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的ルール・マナーのアンケートの結果、特にスマートフォンのカメラの使用について大きな変化があった。（了承を得ずにカメラで撮影することがマナー違反95.7%→87.9%）動画を撮ったり写真撮影したりすることが日常的となっており、カメラの使用に問題意識を持っていないと思われる。誰でも肖像権を持っていることを理解させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室への来室者は比較的少なく、生徒が自主的に健康管理を行っていると考えられる。しかし、病気とまではいかないが、頭痛や肩こり、首痛などの症状に悩む生徒も多い。より良い生活リズムや睡眠の習慣を身に付けられるよう継続的な取り組みを行うと共に、生徒が自ら体調や生活習慣を自己調整する力を高めていく必要がある。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった）

令和4年度 砺波高校アクションプラン -3-

重点項目	ウ 進路支援 進路指導	
重点課題	進路目標の実現に向けて、進路意識の高揚と目標設定の早期化	
現 状	<p>○進路意識が希薄で、自分の能力や適性を把握できないため、目標設定が遅れる生徒がいる。</p> <p>○進路目標はあるが、意識の深まりや学習意欲につながらず、学力が不十分な生徒がいる。</p>	
達成目標	①年間をとおして生徒1人あたりの面接指導の実施回数	②3年1学期までに、進路目標を明確にした生徒の割合
	1、2年生： 6回以上 3年生： 10回以上	80%以上
方 策	<p>○生徒が進路意識を深め、自己を見つめる面接の指導を工夫する。</p> <p>○総合的な探究の時間などを利用して進路研究を行い、進路意識を高める。</p> <p>○社会人や大学生による講話を充実させる。またオープンキャンパスへの参加を積極的に勧めることなどにより進路目標の早期設定につなげる。</p>	
達成度	<p>面接回数</p> <p>1、2年生： 8回程度</p> <p>3年生： 10回以上</p>	<p>志望学部学科を決めた時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年3学期まで 66% (昨年65%) ・3年1学期まで 84% (昨年84%) <p>志望大学を決めた時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年3学期まで 52% (昨年46%) ・3年1学期まで 79% (昨年68%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生は、模試実施後や志望校選択に向けて10回以上実施。 ・2年生は、3年に向けての科目選択学期はじめ、考査実施後に実施。 ・1年生は、入学段階学期はじめ文理選択考査実施後に実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生は、総合的な探究の時間、進路講話、先輩と語る等の取り組みを通して、大学や職業の意識付けをはかった。 ・3年生は、外部模試毎に志望校の見直しを実施させ、志望校への意識付けをはかった。 ・共通テスト後は、各々の事情に合わせた志望校選択指導を行った。
評 価	A	A
学校関係者の意見	<p>・生徒の学力層が二極化する傾向について説明があったが、対策としては生徒一人一人との個別面談が重要であろう。これまでの面談重視の指導をより一層推し進めてほしい。</p>	
次年度に向けての課題	<p>低学年のうちに進路意識や学習習慣を身につけないと、3学年だけの追い込みでは十分な成果が得られない可能性が高い。より充実した指導が必要である。また、総合型選抜など多様な入試制度にも柔軟に対応できる指導体制の確立も必要である。</p> <p>近年、様々な面で2極化傾向にある。本校としてより高いレベルでの集団意識を育てる事が肝要である。</p>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)

令和4年度 砺波高校アクションプラン -4-

重点項目	エ 特別活動 特別活動・図書委員会活動の活発化	
重点課題	生徒の主体的な活動の充実・図書館利用の推進	
現 状	<p>○学校行事では生徒会が中心となって運営し、クラスや部活動単位で協力し合っ てまじめに取り組む生徒が多い。本校生徒としての自覚や連帯感は高いが、やや消極 的で主体性に欠ける生徒も見られる。</p> <p>○ほとんどの生徒が部活動に所属して主体的に活動に取り組んでいるが、学習との 両立に悩み、達成感を得られていない生徒もいる。また部員数の減少により充実し た活動を維持することが難しい部がある。</p> <p>○昨年度実施した読書会は一般生徒の参加を目標としていたが、実際は図書委員だ けの参加による会で終わってしまった。読書をとおして自分の考えを言語化し、わ かりやすく伝えることに関心が低い。</p>	
達成目標	①学校行事において主体的に参加、協力 した生徒の割合 ②部活動の充実度や結果に対する満足 度	③図書委員会の活動に参加、協力した生徒 の割合
	全学年 75%以上	全学年 70%以上
方 策	<p>○行事ごとにアンケートを実施してTGPの身に付けたい力を生徒に意識させ、主体 的、協力的な参加意識を高める。</p> <p>○限られた時間の中で主体的かつ効率的な部活動運営を工夫する。アンケート結果 により生徒の満足度や取組状況等を把握して、今後の運営や指導に役立てる。</p> <p>○教養講座、読書会、ビブリオバトルなどをとおして、知ることや議論することの楽 しさを味わう機会を工夫する。アンケートを実施して生徒の参加・協力状況等を把 握し、今後の運営や指導に役立てる。</p> <p>○授業や課題研究、小論文対策などに必要な本をそろえ、展示を工夫して生徒が主体 的に読書活動を行える環境を整える。</p>	
達成度	<p>①学校行事において主体的に参加、協 力した生徒の割合 95.3% 応援歌練習会 98.0% 体育大会93.5% 砺高祭 95.1% ②部活動に対する満足度 88.6% (1年：85.8% 2年：84.0% 3年：95.9%)</p>	<p>③ 図書委員会の活動に参加、協力した生 徒の割合 85.2% ※1回以上参加した延べ人数による</p>
具体的な 取組状況	<p>4月 応援歌練習会事後アンケート実施 6月 体育大会事後アンケート実施 7月 3年生部活動アンケート実施 9月 砺高祭事後アンケート実施 1月 1,2年生部活動アンケート実施 生徒会執行部による部活動アン ケート実施</p>	<p>毎月「読書への誘い」作成 7月 教養講座 9月 砺高祭 書名当てクイズ、 ポップ作り体験 7・12月 読書会 1月 ビブリオバトル(1・2年)</p>
評 価	A A	
学校関係 者の意見	<p>・南砺市立中学校での部活動の継続が困難であり、地域外への流出もある。小中高間 の部活動の継続やスムーズな接続などについて見通しが持てるとよい。</p> <p>・ビブリオ大会を砺波市立砺波図書館で行うなど砺波高校生との連携は大変有意義で あった。今後さらに機会を増やしてほしい。</p>	
次年度に 向けての 課 題	<p>○3年間、感染症に配慮し行事等に取り組んできた。今後「2類」から「5類」へ引き 下げられ、行動制限がなくなった場合、過去に遡って行事が同様の形態で実施でき るのか、また、新しい形態を見いだしていくのか、いずれにせよ生徒が主体的、協 力的に企画運営や参加ができるような体制を整える。</p> <p>○部活動については、地域、中学校の動向を踏まえ、学校の実情と合わせて、部活動 の存続や実施形態等継続的に検討する。</p> <p>○今年度、目標を読書冊数から生徒の委員会活動状況に注目したものに変更したが、 数値目標とするには難しかった。今後は、図書館利用の推進を掲げ、教科とのさら なる連携や、課題研究・小論文指導等のサポート体勢の充実、館内施設の充実を図 る。</p>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)

令和4年度 砺波高校アクションプラン -5-

重点項目	オ その他 保護者、地域、同窓会との連携	
重点課題	保護者や地域、同窓会との連携・協力の推進および広報活動の充実	
現 状	<p>○保護者の学校行事やP T A行事への参加率は高い。</p> <p>○授業や生徒会活動、部活動等、多様な活動を通して、地域の方との交流や学習する機会を設けている。</p>	
達成目標	①保護者がP T A総会やP T A研修会に参加する割合 (保護者会を除く)	②授業や特別活動で地域の方々と交流した生徒の延べ数が全校生徒に占める割合
	80%以上	50%以上
方 策	<p>○P T A行事や学校行事は早めに知らせ、できるだけ保護者が参加しやすいよう配慮する。</p> <p>○社会状況を考慮しながら、授業や特別活動で生徒が地域調査に出かけたり施設訪問をしたり、地域の方々に来校していただく機会を意図的に設ける。</p> <p>○学校ホームページや同窓会ホームページを適時更新し、本校の教育活動の広報に努めている。</p>	
達成度	<p>5月 1, 2, 3学年懇談会 78.1%</p> <p>7月 3学年研修会 82.1%</p> <p>10月 1, 2学年研修会 75.1%</p>	36.3%
具体的な取組状況	<p>コロナ禍の中ではあったがP T A研修会には多くの保護者に参加していただいた。体育大会と合唱コンクールは、3年生の保護者のみ来場可能とした。</p> <p>課題研究の授業では、地域の方にインタビュー調査をするなど地域の方から学ぶ機会が増加した。</p> <p>授業で、ちゅうりっぷ認定こども園の園児達とオンライン交流会を実施し、異世代交流をすることができた。</p>	
評 価	B	B
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でこども食堂を始めた。1回だけでもボランティアに来て貰いたい。 ・P T A総会などの折に、保護者に学校の施設・設備見学などをする機会があると、改善が必要な箇所が分かり、設備費などの予算配分がスムーズになると思う。 ・奨学金の情報提供をより幅広く行ってほしい。 	
次年度に向けての課題	<p>○次年度も引き続き、P T A行事に多くの保護者に参加していただけるように、P T A懇談会や研修会を土曜日の午後に実施する予定である。</p> <p>○授業や特別活動で、地域の方と交流する機会を積極的に設ける。</p> <p>○砺波高校や礪波同窓会のホームページをこまめに更新し、多くの方に見ていただけるよう努める。</p>	

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 達成できなかった)